

**FREE
無料**

ご自由に
お持ち帰り下さい。

広報誌スマイル

Smile

Vol. 17

May
2016

医療法人錦秀会 阪和第二泉北病院

<http://www.kinshukai.or.jp/kinshukai/hanwadaini/>

阪和第二泉北病院からのお知らせ

地域医療における 療養型病院の位置づけ

P2~3



「すーちゃん」と「まいるくん」の
この人に話を聞いてみたい！

P4

〈レギュラーメニュー〉

◎緩和ケアだより P5

◎医療福祉相談室便り P6

◎栄養部便り P7

◎病院の取り組み P7



医療福祉相談室スタッフ

地域医療における療養型病院の位置づけ

医療福祉相談室 中辻 めぐみ

その中で提起されていた問題として、高齢者の救急要請に対し搬送先の確保が難しいということがあげられていました。

要介護状態の患者様の発熱や摂食不良による衰弱、転倒打撲や腰痛などでの体動困難、介護者がいないことが要因となっている頻繁な救急要請といった症例は必ずしも急性期病院で入院加療を要す病態ではなく、救急隊が受け入れ先確保に困るということでした。

また、受け入れ先である救急病院もこのような患者が増えると救急用の病床が不足したり入院が長期化したり、外来治療のみで帰っていただくことができずにお困りになるそうです。

当院では数年前からこのような患者様を急性期病院の外来から転送で受け入れる院内システムをつくり積極的に受け入れてい

また、高齢者施設の入所者や近隣にお住まいの高齢者が救急要請をされた場合に直接救急隊からの依頼でお受け入れしているケースも増えてきています。

こうした患者様を療養型病院が積極的に受け入れることで、重篤な患者が速やかに救急病院で治療を受けられる地域医療の体制づくりにご協力できればと考えています。

実際、要介護状態でヘルパーの介護のみを受けて生活しておられた要介護高齢者で、ベッドからの転落や気分不良への不安から頻繁に救急要請するため、救急隊から生活保護担当者やケアマネージャーに苦情が入るといった状況の患者様を転送で受け入れた事例があります。

この方については入院期間をゆつくりとれる当院でリハビリをすることで転倒リスクを減らし、その間に関係機関や病棟スタッフが何度も面接・協議を重ね、在宅サービス利用を説得、自宅内の環境整備を行ったうえで退院していただくことで、次に食思不振で外来から再入院されるまでの数か月間、救急車を呼ぶことなくお過ごしになれたそうです。

在宅退院へのかかわり

診療報酬上も求められているとおり、在宅退院へのかかわりも療養型病院の大きな役割の一つです。

地域の救急医療への貢献

地域の中で当院が今後どのような役割を果たしていくべきかという課題について述べてさせていただきます。

現在当院の療養病棟では(表1)のような病態の患者様を中心に入院していただいております。こうした患者様をお引き受けすることで地域医療の中で当院が担える役割について、療養型病院に求められる機能という点もふまえ、考えてみました。

まず地域の救急医療に対し当院がどのようにかかわれるかという点です。

今年の1月9日、医師会主催の『堺市における在宅医療ネットワーク講演会』が「地域包括ケア時代の救急医療のあり方」というテーマで開催されました。

表1

阪和第二泉北病院の受け入れ患者

- ◎高齢者で肺炎、尿路感染その他疾患の急性発症に対する治療が必要な患者
- ◎急性期治療終了後のリハビリテーションが必要な患者
- ◎自宅や施設で対応困難な医療的処置が必要な患者
- ◎介護やリハビリテーションを要する難病患者
- ◎緩和ケアを必要とする患者
- ◎ターミナルケア(看取り)の対象患者

表2

阪和第二泉北病院への受け入れルート

- ◎かかりつけ医→急性期病院(入院)→
阪和第二泉北病院へ転院
- ◎かかりつけ医→急性期病院(外来)→
阪和第二泉北病院へ転送
- ◎救急→急性期病院(入院)→阪和第二泉北病院へ転院
- ◎救急→急性期病院(外来)→阪和第二泉北病院へ転送



今後の課題(地域からの直接受け入れ)

- ◎かかりつけ医→阪和第二泉北病院(入院)
- ◎かかりつけ医→阪和第二泉北病院(外来)→急性期病院
- ◎救急→阪和第二泉北病院(入院)
- ◎救急→阪和第二泉北病院(外来)→急性期病院

回復期リハビリ病棟での1日3時間のリハビリは耐久性が低く辛い、認知症があつて指示が通りにくい、といった高齢者の方であっても、療養型病院では患者のペースに合わせゆつくりと目標の状態に近づくようリハビリをしていたことができず。

また、重症度の高い方ほど在宅介護に対する家族の気持ちが固まるのに時間がかかったり家族自身が介護の練習をする必要があつたり、サービス調整に要する期間が長くなったり、場合によっては新たな生活の場を探したりと退院までの準備に時間がかかります。退院までに何度もカンファレンスを開催し、そのたびに患者様の状態や目標が変わるといったケースもありますが、時間がかかっても退院を諦めずにかかわっていくことが療養型だからこそできるのではないかと考えます。

実際、急性期病院から転送で来られた誤嚥性肺炎の患者様でなかなか炎症が鎮静化せず発熱を繰り返し食事のままならない状態でしたが、本人が強く退院を希望しておられた方がいらつしやいました。

家族は自宅への退院について意見が2転3転し、そのたびにケアマネジャーと連絡を取り最終的に往診・訪問看護・訪問介護・訪問入浴・福祉タクシーなど利用するサービス機関がすべて決定するまでお待ちしたうえで家族にも十分にリスクを説明し、退院された事例がありました。療養型病院で話し合いやサービス調整の時間を十分にとれたため安全に退院できた事例ではないかと思えます。

時々入院、ほぼ在宅

次に、在宅生活を維持して行く為に療養型病院が担える役割について考えてみたいと思

います。

地域包括ケアシステムにおける厚生労働省のキーワードに「時々入院、ほぼ在宅」というものがあります。

どうすれば「ほぼ在宅」を実現できるのか考えた際に、先ほど述べさせていただいたように退院時に入念なサービス調整をして再入院とならないよう支援体制を整えることはもちろん重要ですが、それだけでなく、「厚生労働省の意図とは少し違うかもしれませんが」「退院できなくなるほど悪くなる前に入院して治療する」という方法があるのではないかと思います。

特にともとも重度の介護状態の方や在宅医療を必要とする患者様は、重症化すると回復が難しくなったり、入院が長引いてしまうことが多いと思います。誤嚥性肺炎を起こす前に摂食機能の低下が見られた段階で入院して検査やリハビリを受ける、予備力のない方が発熱したら重症化する前に入院加療を行う、褥瘡が発生したら治療に時間がかかるほど深くなる前に入院して処置とケアを受けるなど、早期に対応することで結果的に入院期間も短くなり、ほぼ在宅が維持できるといえるケースがあるのではないかと思えます。このような目的での入院に柔軟に対応できるのも療養型病院だからではないでしょうか。

また、当院が障害者施設等一般病棟(C1病棟)で計画しているパーキンソン病患者様のリハビリ入院も「ほぼ在宅」へ貢献できる取り組みだと考えます。実はすでにパーキンソン病患者様で家族の介護が受けられない期間に合わせてこの数年に何度か入院している方がいらつしやいます。徐々に症状が進行していることは否めませんが、入院のたびにリハビリを受けていただき、少しでも回復して

帰っていただくことで在宅生活の維持のお役に立っているのではないかと考えます。

ターミナルケアへの支援

最後にターミナルケアにおいて療養型病院ができることを述べさせていただきたいと思えます。

高齢者の終末期については患者様やご家族の要望はさまざまであると思えます。できることなら家で看取りたいがいつまで介護が続くかわからない状況で家族が疲れてしまう、医療的な処置が必要になるにつれ家族の不安が募り自信をなくしてしまうといったケースでは、療養型病院でレスパイトケアを引き受けたり、入院中に看護師が常にいる状況の中で介護の方法や経管栄養の扱い、吸引などを練習していただき、自信をもって在宅での看取りに臨んでいただくといったかわりができるのではないかと思います。

また、できるだけ長期間家で過ごしたいけれど最期を家で迎えるのはこわい、患者が苦しうようになったら入院させてほしい、といった場合に、看取りの目的で入院をお受け入れできるのも療養型病院であり、こうした多様な状況や価値観へも療養型病院の役割として対応できればと考えます。

地域からの直接受け入れ強化

ご紹介したような病態の高齢者について、今までは(表2)のようなルートで入院患者様をご紹介いただくことが多かったのですが、今後は在宅の先生方や救急隊からの依頼で直接受け入れることができれば、より地域の中で療養型病院として求められる役割を

果たせるのではないかと考えます。そうなることと当院が直接受け入れた患者様について診察の結果、侵襲性のある検査や濃厚な治療が必要な患者様については急性期の病院へご紹介するという事例も増える可能性があり、病院内でも機能分担や連携がより重要になってくると思われます。

ただ、このような役割を地域の中で果たしていくに当たっては当院もまだまだ多くの課題を抱えています。

療養型病院であっても今以上に治療の機能を強化していくことは最も大きな課題ですが、そもそも療養型病院ではどんなことができるのかということがあまり知られていないように感じられます。

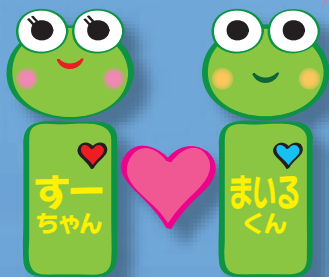
地域の中で在宅医療に携わる方々はもちろん、介護事業にかかわる方、地域住民の方にも療養型病院の機能をお伝えしていく努力が必要だと感じております。

私たち医療福祉相談室と同室内に併設しております錦秀会医療介護サポートセンターは、月曜日・土曜日の日勤帯にご入院の相談だけではなく、ちょっとしたお問い合わせや、ご質問、見学等にも対応しておりますのでお気軽にご連絡下さい。



相談室内に併設している
錦秀会医療介護サポートセンター
TEL.0120-787-600

「すーちゃん」と
「まいるくん」の



この人に話を
聞いてみたい!

看護師 全 俊植

日本の医療現場で働いていた母親と、障害を持った父親の影響で、看護師になって、4月から日本で働くことになりました。

初めは人見知りして、なかなか声掛けもできなかったのですが、病棟の人たちに支えてもらい、少しずつ慣れることができました。

これからも色々なことで悩んだり、苦労することがあると思いますが、最大限努力するつもりです。よろしくお願い致します。

介護 日野 美都紀

私が介護職に就きたいと思った動機は、二つあります。一つ目は、私は老人の方と触れ合うのが好きで、老人の方とかかわれる仕事に就きたいと思ったからです。二つ目は将来両親や、身内を介護する時、役に立つと思ったからです。

錦秀会を選んだ動機は寮を設置している所や、プリセプター制度というのを知り、未経験でも心強いと思い錦秀会で働きたいと思いました。

将来は患者様や、ご家族の方とのコミュニケーションをとり、皆様に必要とされるような人材になれるよう頑張りたいです。

医療ソーシャルワーカー 杉浦 理恵

この春、医療法人錦秀会に入職し、阪和第二泉北病院に配属になりました。これから、医療福祉相談室の医療ソーシャルワーカーとして働きます。ソーシャルワークの場というのは様々ですが、医療の現場で患者様に寄り添いながら、必要な支援について一緒に考えていきたいと思っております。また、様々な職種の方との連携も図り、チーム医療の一員としての役割もこれから担っていけるように努力します。先輩方の指導のもとで、ソーシャルワーカーとしても社会人としても成長していきたいと思っております。

今年度は、看護部門39名、コメディカル部門8名、事務部門1名の
新卒新入職者が阪和第二泉北病院の一員となりました!

平成28年度新人紹介



緩和ケアだより

一人ひとりの役割、
果たせる喜び

vol.
17

Aさんの 「野菜たっぷり すき焼き」づくり

「私、いつか家に帰れるの
かなあ」これがAさんの口癖です。

Aさんは息子さん達が独立したあと、ご主人と二人で暮らしておられました。しかし病気になる、緩和ケア病棟へ入院して来たときには歩くことはおろか、身体を自分で動かすこともままならない状態でした。そんなAさんは窓際のベッドに横たわったまま空を見上げて、早く帰りたい、と繰り返すのです。

★ 『お家に帰って、何かしたいことがあるのですか？』その問いに彼女は「主人が心配。いままで家事なんてしたことのない人なの。ご飯もちゃんと栄養のあるものを食べてないと思う。最近体調を崩しているのもそのせいじゃないかな。ちゃんとしたもの食べないと…」と顔を曇らせて答えました。これまで妻として、母として家族の健康に気を配り、滋養と愛情にあふれた食事を作り続けてきたのでしょう。そんなAさんの思いを支えるため、このお料理プロジェクトはスタートし、Aさんのリクエストで『野菜たっぷりすき焼き』を作ることになりました。



★ Aさんがキッチンに立って料理をするのは難しいので、料理の先生役を担うこととなり、実際の調理はご主人にチャレンジしてもらおうことになりました。この提案に、最初はびくびくしていた様子のご主人も、その趣旨を説明すると「そういうことなら…まあやってみましょう」と苦笑しながらも承諾してくださりました。

★ 当日は息子さんたちご夫婦とお孫さんも来院されました。「お父さんのエプロン姿、初めて見た」「お父さんが台所に立ってるなんて新鮮やわあ」という家族の声援に、はにかみながらもご主人は一世一代、男の料理に挑むべく当病棟のキッチンに立ったのです。

「それはもう少し大きく切ってもいいよ」「そうそう、そんな感じ」とAさんからの確かな指示が飛び、ご主人も「これでええか？」と応じます。長年苦楽を共にしたご夫婦ならではの息の合いかたに、見守るスタッフの心もじんわりと温かくなります。

★ おいしそうな香りが病棟中に漂い、介助役のスタッフももちろんのこと、ナースステーションにいたスタッフたちのお腹の虫までもがざわつきはじめた頃、ご主人入魂のすき焼きが完成。最初は緊張のためか硬い表情で調理バサミをにぎっていたご主人も、すっかり緊張が解けた様子で、出来上がったすき焼きとともに満面の笑みで記念写真に収まってくれました。「うん、しっかり味が染みていておいしい」とAさんにもっこり。合格点をもらえたようです。そのあとは病棟のサロンでAさんを囲んでのすき焼きパーティーです。ご家族からの評判も上々、こうしてプロジェクトは成功裏に終わったのです。

★ その人生において、人には様々な役割が与えられます。妻の役割、母の役割、職業人としての役割。そしてまた、人は自らの役割を果たしたいとも願っています。病院で闘病中でありながらも妻としての役割を果たしたいと願ったAさん。その思いを支えるための今回の試みは、職業人としての役割を精一杯、果たしたいと願っている私たちスタッフにも大きな喜びと充実感を与えてくれました。そんな機会を下さったAさんご夫妻に感謝します。



ニチイのほほえみ 堺八田荘さん

第4回

連携施設に おじゃましました!

今回はグループホーム ニチイのほほえみ堺八田荘さんへ伺いました。

「グループホーム」とは認知症の方が少人数で家庭的な雰囲気の中、共同生活を送る施設です。ニチイのほほえみ堺八田荘さんではご入居された方には「終のすみ家」として暮らして頂きたいという思いで日々、対応されています。

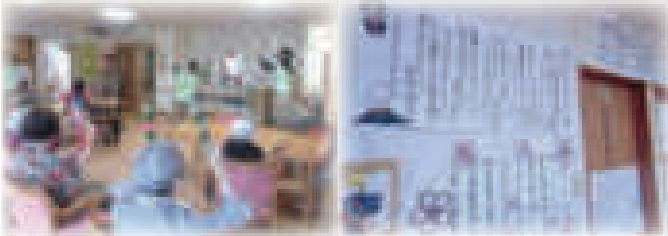


お部屋は個室でお気に入りの家具や慣れ親しんだ物を持ち込めます。

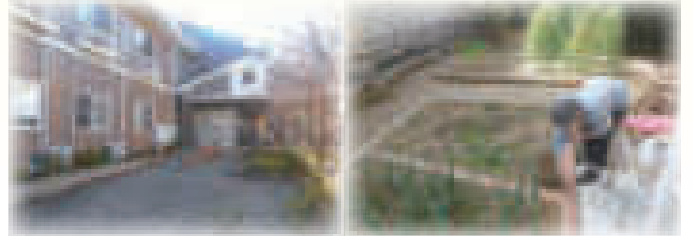
認知症の方でも自分の部屋が分かりやすいように目印がついています。



毎日の日課を行ったり、誰もがしているような日常生活の中での活動が身体機能の維持や認知症の進行予防に繋がっています。



毎日の日課は「リズム体操」。日替わりで1階と2階のフロアを階段で歩き来することや、歌いながら手足を動かすことで頭と体の活性化をはかります。



ホーム前のアプローチの散歩や畑では季節の野菜を育てたり、花々に触れることで季節感を感じて頂けるようにしています。



ホームでの生活ではスタッフと一緒に買い物に行ったり、洗濯物の片付け、食事の配膳や調理の手伝いなど、それぞれ入居者さんのできることをしていただきます。年2回は少し遠出をして外食したり、公園に出掛けることもあります。

「この人はこんなことができるんだ」と肯定的に捉え、その行動を無理に制止せず受け容れる姿勢をスタッフの皆さんは大切にしています。

現在、入所中のAさんは「帰る!」「殺される!」といったことを叫び続けるために他施設での生活が困難でした。ニチイのほほえみ堺八田荘さんに入居されても同様でしたが、スタッフ全員で「ここがAさんの終のすみ家」という決意のもと、Aさんの行動を無理に制止せず受け止め、根気よくコミュニケーションなどを取りながら関わりました。約3ヵ月後、Aさん自身も「受け入れてもらえた」という安心感からか穏やかに過ごしてもらえるようになったそうです。スタッフの皆さんが日々、熱心に入居者さんと向かい合っている結果ですね。



認知症についてもっと知ってほしい

ニチイのほほえみ堺八田荘さんでは、認知症を正しく理解し、地域で生活する認知症の方の支援や見守りを行う認知症サポーターを養成する講座の開催や認知症についての啓発活動を行政機関とも協働して行っています。地域で認知症に対する理解が広まれば認知症になっても慣れ親しんだ地域で生活できる可能性が広がります。このような活動を行うこともグループホームの重要な役割と思い、力を入れて活動しているとのことでした。



【施設概要】

グループホーム ニチイのほほえみ堺八田荘

〒599-8262 大阪府堺市中区八田北町320-1

☎072-279-6561

入所のご相談はこちらまで

栄養部便り

〈新陳代謝を高めて
元気な体をつくる!〉

イカとアスパラガスの食感を楽しむパスタメニューご紹介

春の暖かな風が気持ち良い季節になりました。

これから夏にかけて旬をむかえるイカは、EPA、DHA、タウリンなどを含み、動脈硬化の抑制、肝機能の増強、眼精疲労の回復などの効果があります。また、旬のアスパラガスも、アスパラギン酸(アミノ酸の一種)を含み、新陳代謝を促して疲労回復の効果があります。このアスパラギン酸はアスパラガスに多く含まれている事で命名の由来となったと言われています。

今回は、これらの食材を使ったレモンオイルのパスタをご紹介します。イカに含まれるEPA、DHAは酸化されやすいため、抗酸化作用のあるビタミンE・Cを含むオリーブオイルやレモンと一緒に摂ると、効率よく体内で利用する事ができます。

さっぱりとしたレモンオイルが食欲をそそります

『イカとアスパラガスのレモンオイルパスタ』

材料(1人分)

- イカ 1/2 杯
- アスパラガス 1 本
- オリーブオイル 小さじ 2
- レモン汁 小さじ 1
- 塩コショウ 少々
- パスタ 100g
- 塩 水1ℓに対して 小さじ1



- ①イカは胴と足を切り離し、ワタを取り除く。胴は皮をむかずにリング状に、足は5cm程の食べやすい長さに切る。
- ②アスパラガスは根元の硬い部分をむき、3cm程の長さに切り、鍋で3分程茹でる。
- ③大きな鍋にたっぷりの水を入れ、沸騰したら分量の塩を入れてパスタを茹でる。
- ④フライパンにオリーブオイルを敷き、①、②を炒め、火が通ったらレモン汁、塩コショウで味を整え、湯切りしたパスタをフライパンへ投入し、よく和える。
- ⑤器に盛り付けて完成。



ワンポイントアドバイス



- イカは身が褐色で透明感があり、目が黒く澄んでいるものを選びましょう。
- アスパラガスは全体的に緑色が濃く、太いもの、穂先はしまっていてピンとしているものを選びましょう。
- 冷凍のイカを使ってもおいしく作る事ができます。

病院の取り組み

食べられる安心、満足のために



嚥下機能評価チーム

◎病院の新たな取り組み「嚥下機能評価」

嚥下障害で誤嚥性肺炎を繰り返す患者様が多い中、阪和第二泉北病院では嚥下内視鏡を用いて嚥下状態や咽頭・喉頭の動きを確認する「嚥下機能評価」を行っています。誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者にとって食事が摂れないことは身体へのダメージだけでなく精神的にも大きなダメージとなりQOL(生活の質)が著しく低下します。そこで、嚥下内視鏡を用いて「嚥下機能評価」を実施。食事が可能かどうか、またいつから開始できるかの判断をします。食事を開始することは患者様・ご家族にとって、安心かつ満足な毎日へと繋げられる取り組みだと考えています。今後は内科医師・口腔外科医・看護師・歯科衛生士・管理栄養士・言語聴覚士と各専門分野が集まりプロジェクトチームを結成し、患者・家族のQOL向上に繋げられるよう取り組んでいきます。



道路事情により遅れる場合がありますので
 あらかじめご了承ください。

電車でお越しの方

- ①南海高野線「中百舌鳥駅」、
 地下鉄御堂筋線「なかもず駅」より、
 南海バス「もず陵南町西」下車南へ徒歩5分、
 もしくはタクシー(2.2km)
- ②JR阪和線「上野芝駅」、
 泉北高速鉄道「深井駅」より、
 病院送迎バス、もしくはタクシー(1.7km)

お車でお越しの方

- ①阪神高速堺線終点下車、26号線浜寺中学校
 左折、約10分
- ②阪和自動車道堺IC下車、約15分

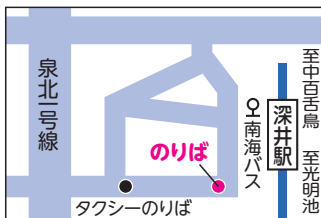
送迎バスが駅から送り迎え致します。



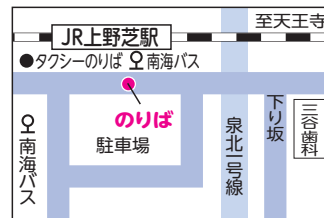
送迎バス時刻表

泉北高速鉄道 深井駅				
平日・土曜		日曜・祝日		
	深井駅→病院	病院→深井駅	深井駅→病院	病院→深井駅
7	15 40	05	7	15 40 05
8	00 20 40		8	00 20 40
9	20 55	10 45	9	20 55 10 45
10	15 40	05 30	10	15 40 05 30
11	15 40	05 30	11	10 50 00 40
12	30 50	40	12	50 40
13	20 50	10 40	13	20 50 10 40
14	20 50	10 40	14	20 50 10 40
15	10	00 45	15	10 00
16	00 25 50	15 40	16	10 45 00 35
17	15 40	05 30 55	17	40 30 50
18	05 30 55	20 45	18	00 20 40 10 30 50
19		10 35	19	15 40
20		15	20	15

泉北高速鉄道「深井駅」



JR 阪和線「上野芝駅」



※深井駅のバス乗り場は事情により若干移動することがあります。
 ※道路事情により遅れる場合がございますのであらかじめご了承ください。

JR阪和線 上野芝駅

平日・土曜		日曜・祝日		
	上野芝駅→病院	病院→上野芝駅	上野芝駅→病院	病院→上野芝駅
7	15 40	05	7	15 40 05
8	00 20 40		8	00 20 40
9	20 55	10 45	9	20 55 10 45
10	15 40	05 30	10	15 40 05 30
11	15 40	05 30	11	10 30 00 20
12	30 50	20 40	12	20 10
13	20 50	10 40	13	20 50 10 40
14	20 50	10 40	14	20 50 10 40
15	10	00 45	15	10 50 00 40
16	00 25 50	15 40	16	45 35
17	15 40	05 30 55	17	40 30 50
18	05 30 55	20 45	18	00 20 40 10 30 50
19		10 35	19	15 40
20		15	20	15

お知らせ

4月11日(月)～6月15日(水)まで、A棟B棟間の渡り廊下のアクリルガラス入れ替え等の工事が行われます。ご不便をおかけしますが、ご了承お願い致します。



医療法人 錦秀会
阪和第二泉北病院

【住 所】〒599-8271 大阪府堺市中区深井北町3176番地
 【連絡先】TEL. 072(277)1401(代)
 【U R L】http://www.kinshukai.or.jp/kinshukai/hanwadaini/

